

(様式1)

令和3年度 学校評価結果報告書(中学校用)

(1) 学校教育目標	6年間を見通した計画的・継続的な指導を通して、真の国際人として未来社会の進展に貢献できる人材を育てる
(2) 現状と課題	現状：県内唯一の県立中高一貫校として、中高一貫校ならではの特色ある教育活動の実践を継続している。 課題：新学習指導要領完全実施に向けての教育課程編成に伴い、中高とも、人員・時間・場所(教室)等の物理的な課題を抱えている。
(3) 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 併設型中高一貫教育校の特色を活かす体系的な教育活動の展開 心身共に健全で豊かな心を持つ生徒の育成 確かな学力を育む教育の充実と生徒の適応に応じた進路実現 理数教育及び語学教育の充実と探究型学習の推進 開かれた学校づくりの推進 快適な職場環境の醸成
(4) 結果の公表	三本木高等学校と同様に、各学年の「学年だより」や「学年懇談会」で説明している。 またホームページにおいても広く公開している。

学校名	青森県立三本木高等学校附属中学校
自己評価実施日	令和4年2月10日(木)
学校関係者評価実施日	令和4年2月24日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
地域の多彩な有識者で構成される学校評議員会を学校関係者評価委員会として位置付けている。 学校評議員5名 (地域企業代表1名、大学関係者1名、保護者代表1名、同窓会代表1名、学校協力者1名)

自己評価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) アー 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	①高校と附属中学校間、学年や分掌及び教科間の連携の強化 ②中高6年間を見通した教育計画及び教育活動の再構築と充実	①附属中学校での先取り学習(数学・英語)を初めとする中高6年間を見通した教育課程を実施する。中高教員の授業への相互乗り入れを継続する。 ②必要に応じて中高合同行事(進路講演会、交通安全教室等)を実施する。 ③部活動の連携を深め、中体連終了後に円滑に高校の部活動に移行できるように継続して取り組む。 ④中3生が、高校と合同で東京大学のオープンキャンパスへの参加。	①附属中学校での先取り学習(数学・英語)を初めとする中高6年間を見通した教育課程を継続して実施できた。中高教員の授業への相互乗り入れを継続できた。 ②中高合同行事は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止及び内容を変更して実施した。 ③部活動の連携を深め、中体連終了後に円滑に高校の部活動に移行できるように継続して取り組むことができた。 ④新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	A	・2年目のコロナ禍で、制約はあると思うが、これまでの教育活動をできるだけ実施する方向で検討してほしい。 ・中高6年間を通じた教育方針・教育計画の再構築はとても重要だと思うので、積極的に取り組んでほしい。 ・早い時期から職業に対する認識を深め、そのために学習するという意識を高めてほしい。	コロナ禍が2年続いたが、内容や方法を工夫しながら、できるだけ実施する方向で次年度も教育実践を計画する。 中高のワーキンググループを核とした教育課程を見直ししながら、中高6年間の教育活動を継続できた。 今後も、学期ごとの見直しを図りながら改善していく必要がある。
2	①自らを律し、他を尊重する、品格ある行動様式を備えた生徒の育成 ②文武両道を実現する部活動 ③教育相談委員会等による支援体制の構築	①中学校単独の運動会、三高祭、合唱コンクールを通して、生徒の自治的な取組と生徒会活動の活性化を図る。 ②今年度から部活動の任意加入制とした。また、部活動の精選を進める。 ③定期的に教育相談委員会(年5回)、主任会議(週1回)を実施し、学級担任等が一人で抱え込まないように、組織的に対応する。 ④学校生活アンケート(年5回)、アセス《学校環境適応感尺度》(年3回)を実施し、生徒本人の主観的な適応感を包括的かつ多面的に判断し、教育相談に生かす。また、データを高校と共有することにより、生徒情報を進学後の生徒指導に生かす。	①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5月に実施予定の運動会は、内容及び時間を短縮して10月に実施した。三高祭は中止。合唱コンクールは無観客で改めて実施した。例年とは異なる制限の多い取り組みではあったが、生徒の達成感をめられるものとなった。 ②部活動の精選は今後も継続していく。 ③定期的に教育相談委員会(年5回)を実施し、学級担任等が一人で抱え込まないように、組織的に対応した。 ④学校生活アンケート(年5回)、アセス《学校環境適応感尺度》(年3回)を実施し、生徒本人の主観的な適応感を包括的かつ多面的に判断し、教育相談に生かすことができた。また、データを高校と共有することにより、生徒情報を進学後の生徒指導に生かしていく。	A	・部活動で学ぶことが多くある。本校は任意加入制ではあるが、未加入の生徒への様々なフォローが必要だと思う。 ・生徒自らが、身のまわりの問題や課題を見付ける能力を育成するような、学校側の指導助言の充実が求められている。 ・公正さや人格を形成する点では、部活動や行事は大切だと考える。 ・ボランティア活動等を通じて職業に興味をもたせることも大切だと考える。	昨年度からのコロナ対策をさらに強化することで、各行事等の内容を再度吟味しながら実施することができた。 今後は、より教育効果を高めるために、細部にわたる改善を積み重ねていく必要がある。
3	①学習意欲を高める授業改善と家庭学習 ②自己の将来とのつながりを見据えたキャリア教育の充実 ③諸学カテストの実施	①校内研修を充実させ、全ての教科で「主体的対話的な深い学び」のための授業実践に努める。 ②中高一貫教育ワーキンググループによる、6年間のキャリア教育プログラムを再構築するために、中学校3年間のキャリア教育プログラムの見直しを行う。 ③諸学カテストの見直しを行う。 ④全国学力・学習状況調査(文部科学省)3年生、青森県学習状況調査(県教委)2年生、学力推移調査(ベネッセ)全学年、駿台中学生テスト(駿台 全国版)全学年、学力診断問題(正進社 県版)全学年	①外部から助言者を招き、「主体的対話的な深い学び」のための校内研修を計画的に実施し、教職員それぞれの授業改善につなげることができた。 ②中学校3年間のキャリア教育プログラムを再構築した。今後、6年間のキャリア教育プログラムを再構築する。 ③諸学カテストを計画的に実施した。全国学力・学習状況調査(文部科学省)3年生、青森県学習状況調査(県教委)2年生、学力推移調査(ベネッセ)全学年、駿台中学生テスト(駿台 全国版)全学年、学力診断問題(正進社 県版)全学年、駿台中学生テストについて、次年度は出題範囲の関係から3学年のみで実施する予定。	B	・各事業の成果の報告や検証を行い、次の取組に生かしてほしい。 ・学習することの目的を明確にさせ、なぜ学習するのかを意識するためにもキャリア教育の一層の充実を図りたい。	コロナ禍ではあったが、キャリア教育に関わる実践を学年単位で実施できた。 本校で生徒に身に付けさせたい基礎的汎用的能力を明確にししながら、キャリア教育の充実にも努め、生徒の学習意欲を一層高めていく必要がある。
4	①SSH事業で培われた理数教育のノウハウを継承し、課題解決型の授業を展開 ②外部専門機関と連携した英語指導力向上事業を積極的に活用 ③中高一貫教育の中にGSC(グローバルイノベーション)及び語学教育の運営体制を構築	①「中高一貫教育ワーキンググループによる運営体制の再構築」や「授業改善」の他に、数学、英語では中3時の先取り学習(高校教諭による)、数学、理科では標準授業時数を超えた授業時間数の確保、総合的な学習では高校教員による探求的な学習の実施、中高協働探究セミナーの実施、高校のGSCの発表会等への参加などを実施する。 ②大学受験を見据えて英検の上位級取得を目指す。	①GSC事務局と協力しながら、数学・英語での先取り学習、高校教員による探求的な学習(総合的な学習の時間)、中高協働探究セミナー、サイエンスコースの課題研究発表会への参加などを行った。 ②英検2級、準2級合格者を多数出すことができた。また、準1級合格に挑戦する生徒も支援できた。	B	・今後も個に応じた指導を継続してほしい。 ・数学・英語ともにこれまで以上に高校の分野を先取りした内容を充実させてほしい。	ICT(タブレットPC等)を適切に活用しながら「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行ってきた。その結果、生徒の学校評価においても、学力に関する項目については、全て評価が向上しており、学習成績も向上している。しかし、少数ではあるが、学習面で配慮が必要な生徒が見られることから、今後は個に応じた指導を進めていく必要がある。
5	①小学校への訪問活動を継続 ②本校ホームページへの定期的な情報公開	①校長、教頭での小学校に訪問を継続する。 ②小学校担当職員を決め、小学校との情報交換を行う。 ③本校HPに、定期的に情報を公開する。	①教頭が小学校訪問を継続して実施した。 ②小学校担当職員を決め、小学校との情報交換を密にした。 ③本校HPに、定期的に情報を公開した。	B	・ホームページは随時更新されているので、今後も続けてほしい。 ・附属中のメリットを、これまで以上に小学校(児童、保護者、教職員)に伝えていってほしい。	コロナ感染拡大により、9月実施予定だった学校説明会や小学校での説明会がすべてできなかった。そのため本校の情報を例年通り発信することが非常に困難であった。
6	①教職公務員としての勤務規律の確保 ②教職員間のコミュニケーションによる相互理解 ③心身の健康を維持・増進と多忙化解消	①教職員の勤務規律の確保の徹底について、研修資料をもとに全職員で定期的に確認する。 ②教職員間の日常的な情報交換を密にし共有する。 ③ワークライフバランスを確保できるよう、業務の効率化を図る。	①職員朝会や職員会議等で、管理職から情報を提供し、勤務規律の確保の徹底について職員全体で確認した。 ②些細なことでも職員同士で情報を共有し、組織的に対応した。 ③前年度の踏襲を見直し、業務の効率化を図った。	B	・働き方改革を図り、職員の心身の健康の維持に努めてほしい。 ・勤務規律の確保の徹底については、今後とも全職員で気を付けてほしい。	踏襲型の業務を見直し、改善を図りながら教育活動にあたっていく必要がある。 勤務規律については、校内研修などでも扱い、職員の意識の高揚を図ってきた。

(11) 総括	コロナ禍で制約の多い1年ではあったが、内容や方法を工夫しながら教育実践を積み重ねてきた。次年度も、できることを更に見直ししながら、より充実した教育活動ができるよう、それぞれの目的や生徒に身に付けさせたい力を明確にしながら取り組んでいきたい。
---------	--